「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

対　策　分　析　シ　ー　ト

対策メニュー名	高効率パッケージエアコンの導入	シート番号	A11152
システム・設備	空調システム	6 類型	電化
削減余地順位	全体：4 位　産業部門：12 位　業務部門：4 位		

診断結果と対策提案実施の状況（診断結果は H28～R2 年度診断分、提案実施状況は H28～H31 年度診断分）

表 1．診断結果（対策の削減余地・診断時の提案率）　　▶ 削減余地の大きい 5 業種（診断件数 20 以上）

	全体	産業部門	業務部門	85 社会保険等の事業	82 教育、学習支援業	81 学校教育	88 廃棄物処理業	75 宿泊業
削減余地 [千 t-CO_2]	4,276	647	3,629	539	526	407	374	350
診断件数	3,303	1,216	2,087	484	27	56	42	215
診断時提案数	175	40	135	44	2	2	1	14
診断時提案率	5[%]	3[%]	6[%]	9[%]	7[%]	4[%]	2[%]	7[%]

表 2．対策提案の実施状況

	全体	産業部門	業務部門	85 社会保険等の事業	82 教育、学習支援業	81 学校教育	88 廃棄物処理業	75 宿泊業
事業報告書提案数	134	27	107	34	2	1	1	11
事業報告書実施数	62	9	53	12	1	0	0	5
事業報告書実施率	46[%]	33[%]	50[%]	35[%]	50[%]	0[%]	0[%]	45[%]

表 3．実施された対策の内容

	項目		最大値	中央値	最小値	平均値
提案・実施内容	CO_2 削減量	[t-CO_2/年]	307.3	29.0	1.33	46.7
	導入コスト	[千円]	141,589	32,586	600	39,245
	運転コスト削減	[千円/年]	12,484.9	1,261.4	36.6	2,245.6
	投資回収年数	[年]	772.2	19.1	2.3	42.7
	事業所 CO_2 削減割合	[%]	51.2	8.1	0.688	11.2

表 4．提案された対策の実施理由・未実施理由

実施理由	初期費用が安かったため	0	実施理由の大半は「補助金を活用できたため」と「省エネ効果の根拠が明確で確実性があるため」である。「その他」は、老朽化による更新等である。
	補助金を活用できたため	20	
	投資回収年数が短いため	1	
	省エネ効果の根拠が明確で確実性があるため	17	
	その他　（無回答を含まず）	6	
未実施理由	初期費用が高かったため	3	
	提案された設備の機能や運用に懸念	0	
	補助金を活用できなかったため	1	
	投資回収年数が長かったため	1	
	省エネ効果の根拠が不明で確実性がなかったため	0	
	既存設備がまだ使えたため	2	
	対策実施により事業所の操業に影響が生じるため	1	
	その他　（無回答を含まず）	5	

表 5．同時に実施されることが多い対策

同時実施の順位	メニュー番号	対策メニュー名	同じ大分類
1	21031	LED 照明の導入	
2	11316	冷暖房設定温度・湿度の緩和	○
3	11135	高効率パッケージエアコンの導入（老朽化更新を含む）	○

※ 特記事項　実施された対策について（表 3）

(1) 削減量最大例は、老朽化した都市ガス使用の吸収式冷温水機をパッケージエアコンに更新することにより、CO_2 排出量を 7 割削減することを提案した(補助金活用)。本例は、運転コスト削減最大例でもある。

(2) 投資回収年数が 100 年を超える実施例が 3 件あるが、これらは更新時期に併せて行われたものである。投資回収年数最大例は、27 年以上経過した吸収式冷温水発生機が経年劣化により運転効率が低下したためヒートポンプ化を提案し実施された（補助金活用)。

(3) 削減割合最大例は、2 台ある老朽化した全館空調機のうち暖房時重油使用の 1 台に代えて高効率空調を導入することにより設備の CO_2 発生量を約 1/3 にすることを提案し実施された(補助金活用)。事業所 CO_2 削減割合最大事例は、施設エネルギー使用量の 67[%]を占める稼働率の高い老朽パッケージエアコン 16 台を高効率型に更新することで消費電力量を 1/4 にした。(補助金活用)